

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・世界史B	3	3	『世界史B』新訂版(実教)	『ニューステージ世界史詳覧』(浜島)
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史と世界史が不可分の関係にあることをふまえ、日本人として世界史への興味・関心を持たせる。 ・人物や出来事に対する評価が国や時代によって違うことに気づかせ、柔軟な価値観を持たせる。 ・日本は、近代以来どのような道を行ってきたのかを、地域や世界との関係に着目して考えさせる。 			
単元	学習内容	到達度目標		
第10章 アジア諸国の帝国と第2次大交易時代	<ol style="list-style-type: none"> 1 中央ユーラシア世界と西アジア世界の帝国 2 南アジア世界の帝国 3 東南アジア諸国と第2次大交易時代 4 東アジア世界の帝国 5 14～18世紀の朝鮮半島と日本列島 	<ul style="list-style-type: none"> ・西アジアでティムール、オスマン帝国、サファヴィー朝、インドでムガル帝国が建国し、各地のイスラーム文化を展開したことを理解する。 ・永楽帝の対外積極策の中で行われた鄭和の遠征の意義を理解する。 ・清朝の皇帝が中国歴代王朝と北方遊牧社会双方の君主であったことを理解する。 		
第11章 環大西洋革命の展開とパクス=ブリタニカ	<ol style="list-style-type: none"> 1 イギリスの産業革命 2 南北アメリカの革命 3 フランス革命とナポレオン帝政 	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス革命が18世紀後半のヨーロッパ社会の近代化に大きな影響を与えたことを確認する。 ・イギリスで産業革命がはじまった要因を理解し、資本主義社会の成立について考察する。 		
第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	<ol style="list-style-type: none"> 1 ウィーン体制と1848年の諸革命 2 19世紀後半のヨーロッパとアメリカ 3 19世紀のヨーロッパ・アメリカの社会と文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン体制の矛盾点を指摘し、体制を動揺させた運動の背景理解を深める。 ・自由主義・ナショナリズム運動の観点から、1848年の世界史的意義を理解する。 ・ドイツ統一家庭におけるビスマルクの果たした役割を確認する。 ・イタリアの統一の経過と問題点を内外の情勢と関連させて理解する。 ・南北戦争の持つ社会的・経済的・地域的・国際的性格を把握する。 		
第13章 地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	<ol style="list-style-type: none"> 1 ヨーロッパの帝国主義 2 アメリカの帝国主義 3 西アジアの改革運動 4 アフリカの分割と抵抗 5 インドの植民地化と民族運動 6 東南アジアの植民地化と民族運動 7 中華帝国の崩壊と中華民国の創立 8 19～20世紀初頭の朝鮮半島と日本列島 	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義時代の経済・社会・政治の特徴を把握する。 ・ナショナリズムの二面性について考察する。 ・科学技術の進展が現代世界に与えた影響を把握するとともに、文化面に現れる白人優越思想について検証する。 ・アフリカ・アジア各地で、列強の植民地支配に対して激しい民衆の抵抗運動が起こったことを理解する。 ・東アジアの複雑な国際関係を、中国や朝鮮の民衆、日本の対外膨張主義、列強の利害などから多面的に理解する。 ・西アジア各地の改革運動の実態を把握し、その共通点(特にイスラーム教)と問題点を理解する。 ・イギリスによるインド植民地統治の方法を具体的に検証し、経済的搾取の実態を理解する。 ・東南アジア各地に対するヨーロッパ諸国の進出の背景と経過を理解する。 ・中国近代史のはじまりとしてのアヘン戦争の意義を確認する。 		
第14章 二つの世界大戦	<ol style="list-style-type: none"> 1 第一次世界大戦 2 ヴェルサイユ体制と国際協調 3 アジアのナショナリズムの台頭 4 世界恐慌とファシズム 5 満州事変と日中戦争 6 第二次世界大戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・三国協商と三国同盟の対立の構図を理解する。 ・バルカン半島におけるロシアとオーストリアの対立構造を把握する。 ・第一次世界大戦の原因・経過とともに、総力戦としての性格を理解する。 ・大衆や女性の観点から戦争の性格を考察する。 ・「平和に関する布告」(ソ連と「十四カ条の平和原則」(アメリカ)が、20世紀の国際関係の基本的対立につながることを理解する。 ・世界恐慌がなぜ発生したか、その背景を理解する。また、世界恐慌の発生が第二次世界大戦の原因となったことを理解する。 ・ナチス台頭の背景を、政治・社会・経済などの諸側面から把握する。 ・第二次世界大戦の背景や性質について考察する。 		
第15章 冷戦から多極的国际社会へ	<ol style="list-style-type: none"> 1 冷戦時代の国際関係 2 戦後の南北アメリカ 3 戦後のソ連・ロシアと東ヨーロッパ 4 戦後の西ヨーロッパ 5 戦後のアフリカ 6 戦後の西アジア 7 戦後の南アジア 8 戦後の東南アジア 9 戦後の東アジア 10 20世紀の文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・米ソ両国がそれぞれの陣営を形成した理由を考察する。 ・アジア各地の独立過程を理解させつつ、その特徴を把握する。 ・冷戦がアメリカに有利に転換した背景を探る。 ・平和共存への動きの背後にある大国の論理と利害を理解する。 ・社会主義世界がなぜ分裂し対立したのか、東欧と中国の動向から考察する。 ・ベトナム戦争の経過とアメリカに対する影響を理解する。 ・世界各地の地域紛争がなぜ起こるのか、その背景と解決策を模索する。 		
第16章 グローバリゼーションと地球環境の危機	<ol style="list-style-type: none"> 1 グローバリゼーションの光と影 2 「9.11」とアメリカ 3 国際協調をめざして 4 ゆたかで安全な地球をめざして 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺国への侵略、ナショナリズム、テロ問題、人種問題など現在の課題に対して、関心を持つ。 ・市場経済の優越、グローバリゼーションの進行など、国民国家の枠組みを超えた、人類が直面する新たな課題を身近な問題として捉える。 ・南北格差の実態を把握する。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・日本史B	3	3(体育コース)	日本史B 新訂版(実教出版)	最新日本史図表 三訂版(第一学習社) ステップアップ日本史(啓隆社) 必携日本史用語(実教出版) など
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の基本用語や人物の事績などを確認するとともに、通史の流れや因果関係を理解する。 史料や資料に基づき考察を加えながら、歴史への関心を高める。 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。 			
単元	学習内容	到達度目標		
幕藩体制の展開と近世文化の成立	<ul style="list-style-type: none"> 織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 鎖国 近世の生活と文化 	<ul style="list-style-type: none"> 織豊政権をととして近世の新秩序の基盤が形成されたことを説明することができる。 江戸幕府の政治組織、経済基盤、大名・朝廷統制、農村支配の基本的仕組みを、幕府の意図・ねらいを踏まえて説明することで、幕藩制下の封建社会を理解することができる。 江戸初期の積極的な外交方針が家康の死後に鎖国政策に転換され、段階的に鎖国が実現していく過程を説明することができる。 		
幕藩体制の展開と近世文化の成立	<ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の成立 鎖国 近世の生活と文化 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の政治組織、経済基盤、大名・朝廷統制、農村支配の基本的仕組みを、幕府の意図・ねらいを踏まえて説明することで、幕藩制下の封建社会を理解することができる。 江戸初期の積極的な外交方針が家康の死後に鎖国政策に転換され、段階的に鎖国が実現していく過程を説明することができる。 		
幕藩体制の動揺と文化の成熟	<ul style="list-style-type: none"> 幕府政治の展開 経済の発展 学芸の発展と元禄文化 幕藩体制の動揺と幕政の改革 欧米列強の接近と天保の改革 江戸中・後期の文化 	<ul style="list-style-type: none"> 17世紀後半、幕政が文治政治へ方針転換していく過程を、幕府支配の安定と、それが実現する中で顕在化してきた矛盾の中で進められていったことを説明することができる。 幕藩体制の確立による「泰平の世」や鎖国により、国内産業が発展し、町人の実力向上につながり、新しい社会が形成されていったことを説明することができる。 幕府支配が、18世紀以降顕著となった社会・経済の変化に順応しきれず、徐々に揺らいでいったことを説明することができる。 欧米列強のアジア進出により、幕府も外交方針の変更を迫られ、それが幕府支配を揺るがす要因になったことを説明することができる。 町人の実力向上により、庶民文化が展開されると共に、社会・経済の変化に伴い幕府支配に対して批判的な思想や学問も芽生え始めたことを説明することができる。 		
幕藩体制の動揺と文化の成熟	<ul style="list-style-type: none"> 幕府政治の展開 経済の発展 学芸の発展と元禄文化 幕藩体制の動揺と幕政の改革 欧米列強の接近と天保の改革 江戸中・後期の文化 	<ul style="list-style-type: none"> 17世紀後半、幕政が文治政治へ方針転換していく過程を、幕府支配の安定と、それが実現する中で顕在化してきた矛盾の中で進められていったことを説明することができる。 幕藩体制の確立による「泰平の世」や鎖国により、国内産業が発展し、町人の実力向上につながり、新しい社会が形成されていったことを説明することができる。 幕府支配が、18世紀以降顕著となった社会・経済の変化に順応しきれず、徐々に揺らいでいったことを説明することができる。 欧米列強のアジア進出により、幕府も外交方針の変更を迫られ、それが幕府支配を揺るがす要因になったことを説明することができる。 町人の実力向上により、庶民文化が展開されると共に、社会・経済の変化に伴い幕府支配に対して批判的な思想や学問も芽生え始めたことを説明することができる。 		
近代への転換	<ul style="list-style-type: none"> 開国 明治維新 四民平等と富国強兵 初期の外交と国内政治 文明開化 	<ul style="list-style-type: none"> 日本近代史を、西洋の市民革命・産業革命との関連の中で説明することができる。 外圧により、幕府権威が失墜し、尊皇攘夷運動が討幕運動へと転換していく過程を説明することができる。 明治政府により、西洋に倣った近代化が進められていったことを、廃藩置県、地租改正、徴兵令、教育令、殖産興業の推進などの具体的諸政策をととして説明することができる。 明治政府による改革により、既得権を失った士族が反乱を起こすが、西南戦争を契機に反政府運動が自由民権運動に集約されていき、士族民権から豪農民権へと変質していく過程を説明することができる。 		
近代国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> 民権運動の展開 立憲政治への道 条約改正 初期議会と日清戦争 政党の進出と日露戦争 産業革命と社会の変化 近代文化の形成と展開 	<ul style="list-style-type: none"> 西洋の啓蒙思想の影響も受けて、自由民権運動が広く国民の政治参加を要求する運動に発展していくことを説明することができる。 欧米に倣った立憲体制や処方点の整備が進められ、近代的法治国家の仕組みが整えられていったことを説明することができる。 条約改正の達成の意義を、日本の国家体制の整備や、富国強兵・殖産工業政策、国際社会の中での地位向上など、様々な視点で捉え説明することができる。 日清・日露戦争の原因・結果について、19世紀の帝国主義の潮流の中で捉えて説明することができる。 		
両大戦間の日本と市民文化	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦 大戦後の内外環境 政党政治の展開 市民文化 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の背景や、日本への影響を説明することができる。 国際連盟の成立や国際的な軍縮の流れを、大戦の直接的影響や大戦後の各国の経済状況などの視点から説明することができる。 第一次大戦後の世界的な民衆運動の高揚や、戦争への国民の負担に伴う国民の政治参加要求、日本の産業革命による資本主義社会の成立などの様々な要因が国民の政治参加要求の高揚につながり、大正デモクラシーが実現したことを説明することができる。 		
十五年戦争と日本	<ul style="list-style-type: none"> 満州事変 日中戦争 アジア太平洋戦争 戦時下の国民生活 	<ul style="list-style-type: none"> 大戦後の国際協調の流れが、世界恐慌を境に崩れ、ブロック経済により国際市場から締め出されたファシズム国家群が領土拡大に乗り出し、日本も東アジアへの支配力拡大を図り、中国との15年戦争、そして太平洋戦争へと突入していく過程を、世界史的視点で捉えて説明することができる。 		
現代の日本と新しい文化	<ul style="list-style-type: none"> 占領と民主改革 サンフランシスコ講和会議と安保体制 高度経済成長期の日本 経済大国日本と国民生活 東西冷戦の終焉と日本 	<ul style="list-style-type: none"> 米ソ冷戦に伴い、日本の占領政策も転換され、西側諸国の一員として反共の防波堤となるべく、民主主義と平和主義の基本方針の下、独立を回復し国際社会に復帰することができたことを理解することができる。 平和な国際関係を背景に、日本の経済復興が進み、世界史上でも希な高度経済成長を成し遂げ、国際的な地位を高めたことを説明することができる。 米ソ冷戦が終了し、東欧社会主義体制が崩壊すると共に、欧州統合の強化やアジア諸国の経済発展が進むなど国際社会の劇的な変化の中で、日本も55年体制の崩壊に夜政界再編や、経済の構造的に再編が迫られている現状を理解し説明することができる。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・日本史B	3	3(文系)	日本史B 新訂版(実教出版)	最新日本史図表 三訂版(第一学習社) ステップアップ日本史(啓隆社) 必携日本史用語(実教出版) など
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の基本用語や人物の事績などを確認するとともに、通史の流れや因果関係を理解する。 史料や資料に基づき考察を加えながら、歴史への関心を高める。 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。 			
単元	学習内容	到達度目標		
幕藩体制の展開と近世文化の成立	<ul style="list-style-type: none"> 鎖国 近世の生活と文化 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸初期の積極的な外交方針が家康の死後に鎖国政策に転換され、段階的に鎖国が実現していく過程を説明することができる。 		
幕藩体制の動揺と文化の成熟	<ul style="list-style-type: none"> 幕府政治の展開 経済の発展 学芸の発展と元禄文化 幕藩体制の動揺と幕政の改革 欧米列強の接近と天保の改革 江戸中・後期の文化 	<ul style="list-style-type: none"> 17世紀後半、幕政が文治政治へ方針転換していく過程を、幕府支配の安定と、それが実現する中で顕在化してきた矛盾の中で進められていったことを説明することができる。 幕藩体制の確立による「泰平の世」や鎖国により、国内産業が発展し、町人の実力向上につながり、新しい社会が形成されていったことを説明することができる。 幕府支配が、18世紀以降顕著となった社会・経済の変化に順応しきれず、徐々に揺らいでいったことを説明することができる。 欧米列強のアジア進出により、幕府も外交方針の変更を迫られ、それが幕府支配を揺るがす要因になったことを説明することができる。 町人の実力向上により、庶民文化が展開されると共に、社会・経済の変化に伴い幕府支配に対して批判的な思想や学問も芽生え始めたことを説明することができる。 		
幕藩体制の動揺と文化の成熟	<ul style="list-style-type: none"> 幕府政治の展開 経済の発展 学芸の発展と元禄文化 幕藩体制の動揺と幕政の改革 欧米列強の接近と天保の改革 江戸中・後期の文化 	<ul style="list-style-type: none"> 17世紀後半、幕政が文治政治へ方針転換していく過程を、幕府支配の安定と、それが実現する中で顕在化してきた矛盾の中で進められていったことを説明することができる。 幕藩体制の確立による「泰平の世」や鎖国により、国内産業が発展し、町人の実力向上につながり、新しい社会が形成されていったことを説明することができる。 幕府支配が、18世紀以降顕著となった社会・経済の変化に順応しきれず、徐々に揺らいでいったことを説明することができる。 欧米列強のアジア進出により、幕府も外交方針の変更を迫られ、それが幕府支配を揺るがす要因になったことを説明することができる。 町人の実力向上により、庶民文化が展開されると共に、社会・経済の変化に伴い幕府支配に対して批判的な思想や学問も芽生え始めたことを説明することができる。 		
近代への転換	<ul style="list-style-type: none"> 開国 明治維新 四民平等と富国強兵 初期の外交と国内政治 文明開化 	<ul style="list-style-type: none"> 日本近代史を、西洋の市民革命・産業革命との関連の中で説明することができる。 外圧により、幕府権威が失墜し、尊皇攘夷運動が討幕運動へと転換していく過程を説明することができる。 明治政府により、西洋に倣った近代化が進められていったことを、廃藩置県、地租改正、徴兵令、教育令、殖産興業の推進などの具体的諸政策をおして説明することができる。 明治政府による改革により、既得権を失った士族が反乱を起すが、西南戦争を契機に反政府運動が自由民権運動に集約されていき、士族民権から豪農民権へと変質していく過程を説明することができる。 		
近代国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> 民権運動の展開 立憲政治への道 条約改正 初期議会と日清戦争 政党の進出と日露戦争 産業革命と社会の変化 近代文化の形成と展開 	<ul style="list-style-type: none"> 西洋の啓蒙思想の影響も受けて、自由民権運動が広く国民の政治参加を要求する運動に発展していくことを説明することができる。 欧米に倣った立憲体制や処分点の整備が進められ、近代的法治国家の仕組みが整えられていったことを説明することができる。 条約改正の達成の意義を、日本の国家体制の整備や、富国強兵・殖産工業政策、国際社会の中での地位向上など、様々な視点で捉え説明することができる。 日清・日露戦争の原因・結果について、19世紀の帝国主義の潮流の中で捉えて説明することができる。 		
両大戦間の日本と市民文化	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦 大戦後の内外環境 政党政治の展開 市民文化 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の背景や、日本への影響を説明することができる。 国際連盟の成立や国際的な軍縮の流れを、大戦の直接的影響や大戦後の各国の経済状況などの視点から説明することができる。 第一次大戦後の世界的な民衆運動の高揚や、戦争への国民の負担に伴う国民の政治参加要求、日本の産業革命による資本主義社会の成立などの様々な要因が国民の政治参加要求の高揚につながり、大正デモクラシーが実現したことを説明することができる。 		
十五年戦争と日本	<ul style="list-style-type: none"> 満州事変 日中戦争 アジア太平洋戦争 戦時下の国民生活 	<ul style="list-style-type: none"> 大戦後の国際協調の流れが、世界恐慌を境に崩れ、ブロック経済により国際市場から締め出されたファシズム国家群が領土拡大に乗り出し、日本も東アジアへの支配力拡大を図り、中国との15年戦争、そして太平洋戦争へと突入していく過程を、世界的視点で捉えて説明することができる。 		
現代の日本と新しい文化	<ul style="list-style-type: none"> 占領と民主改革 サンフランシスコ講和会議と安保体制 高度経済成長期の日本 経済大国日本と国民生活 東西冷戦の終焉と日本 	<ul style="list-style-type: none"> 米ソ冷戦に伴い、日本の占領政策も転換され、西側諸国の一員として反共の防波堤となるべく、民主主義と平和主義の基本方針の下、独立を回復し国際社会に復帰することができたことを理解することができる。 平和な国際関係を背景に、日本の経済復興が進み、世界史上でも希な高度経済成長を成し遂げ、国際的な地位を高めたことを説明することができる。 米ソ冷戦が終了し、東欧社会主義体制が崩壊すると共に、欧州統合の強化やアジア諸国の経済発展が進むなど国際社会の劇的な変化の中で、日本も55年体制の崩壊に夜政界再編や、経済の構造的に再編が迫られている現状を理解し説明することができる。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・地理B	3	3	新詳地理B(帝国書院)	フォトグラフィア地理図説2020
科目の概要と目標	<p>・世界の人々の生活・文化に関する地域的特色とその動向を、自然環境および社会環境と関連づけて理解させ、世界と日本を比較し多面的に考察させることによって、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</p> <p>・グローバル化した現代において、地理を学ぶ意義は増しており、特に地球的な課題(人口問題、食料問題、環境問題、資源・エネルギー問題、民族対立、地域紛争)の現状とその解決に向けた方策を探り、共生社会の一員としての理解を深める。</p>			
単元	学習内容	到達度目標		
人口・村落・都市	世界の人口	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口についてその分布の特徴や動態を理解できる。 ・人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策を考察することができる。 		
	人口問題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口問題の課題を理解し、その解決策を考察することができる。 		
	村落と都市	<ul style="list-style-type: none"> ・村落と都市について、その立地条件や発達の背景を理解し、村落や都市がもつ機能と人間生活とのかかわりについて考察することができる。 		
	都市・居住問題	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・居住問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策を考察することができる。 ・日本の都市・居住問題の課題を理解し、その解決策を考察することができる。 		
生活文化・民族・宗教	世界の衣食住	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の衣食住について、地域的差異があることに気づくことができる。 		
	民族と宗教	<ul style="list-style-type: none"> ・民族と言語、世界の宗教の特徴や分布について理解し、生活とのかかわりについて、考察することができる。 		
	現代世界の国家	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の国家について、国家と領域・国境のあり方、国家と主権の考え方を理解し、国家と国家間の関係について考察できる。 		
	民族・領土問題	<ul style="list-style-type: none"> ・民族・領土問題について、大観とその原因を理解し、人間が共生していくためには何が必要か考察することができる。 ・日本を巡る領土問題やその原因を理解し、日本国内で暮らす外国人との共生の課題を考察することができる。 		
現代世界の地誌的考察	現代世界の地域区分	<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分の目的や意義を理解することができる。 		
	地域の考察方法	<ul style="list-style-type: none"> ・国・地域ごとの地域区分とその考察方法について、理解する。 		
	東アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	東南アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	南アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・南アジアについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	西・中央アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・西・中央アジアについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	ロシア	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	アングロアメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・アングロアメリカについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	ラテンアメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	オセアニア	<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニアについて、自然環境・歴史・文化・産業など多様な事象や日本とのかかわりを考察することができる。 		
	日本			

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・体育	3	2		ニューカラスポーツ (一橋出版)
科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の合理的実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようになる。 ・運動の必要性を理解し、生涯を通して自己の能力に応じて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。 			
単元	学習内容	到達度目標		
・オリエンテーション ・一体ほぐし、体づくり ・新体カテスト ・陸上競技	1,000m走・1500m走 ・ペース走・インターバル ・レペティション・トライアル 50m・100m走 ・走の基本技術・スタート練習 ・中間走・トライアル	<ul style="list-style-type: none"> ・実践を通して陸上競技の楽しさにふれる。 ・自己の技術的・体力的課題を知り、その解決を図りながら記録の向上を目指す。 		
選択種目 (男子) ・サッカー (女子) ・バレーボール	基本技術・キック・ヘディング・ドリブル ・トラッピング・スローイング 応用技術・パスキープ(3対1) 簡易ゲーム(ハーフコート) 基本技術・パス・サーブ・サーブレシーブ ・フォーメーション簡易ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技術を身につける。 ・サッカーの特性と戦術を理解し、ゲームの攻防を楽しむ。 ・基本的な技術を身につける。 ・チーム全員で協力し、楽しくパスゲームができるようになる。 		
(男子・女子) ・ソフトボール	基本技術 ・打つ(構え方、スイング、スタンス、バント) ・捕える(スローイング、キャッチング) ・投げる(スタンダード、スリングショット) ・走る(ベースランニング、スライディング) 簡易ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技術を身につける。 ・種目の特性を理解し、個人やチームの能力を把握する。 ・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限に活用してゲームを行う。 		
・バスケットボール 武道(柔道・剣道)・ ダンス選択	基本技術・パス・ドリブル・シュート・ピポット 応用技術・2対1・3対2 簡易ゲーム ・礼法 ・基本動作(姿勢と組み方、崩しと前さばき、素振り、防具の着脱) ・対人技能(固め技、投げ技、打突の仕方、受け方、打たせ方)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技術を身につける。 ・バスケットボールの特性と戦術を理解し、ゲームの攻防を楽しむ。 ・基本動作、格技を習得するとともに、相手の動きに応じた無理のない攻防を身につける。 ・相手を尊重し、礼儀を重んじる姿勢を身につける。 ・グループごとに表現したいテーマを考え、イメージにあった動きを探求する。 		
・バドミントン ・卓球	基本技術・ラケットの握り方と操作 (バドミントン)・ドライブ・ハイクリア・カット・サーブ ・ヘアピン・スマッシュ・プッシュ (卓球)・フォアハンド、バックハンド・カット・ドライブ ・スマッシュ 簡易ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン、卓球の特徴を理解し、正しくシャトル・ボールを打てるようになる。 ・簡易ゲームでラリーを楽しめるようになる。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
情報・社会と情報	3年(体育コース)	2	社会と情報【東書】	事例でまなぶプログラミングの基礎 社会と情報 学習ノート
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> メディアについての理解とそれを適切に判断する力を育成するとともに、コミュニケーション能力を育成する。 情報モラルが大きな位置を占めているため、情報社会に生きる市民として当然知らなければならない法律や制度を正確に教えることやコミュニティなどへの参加方法などについても理解させる。 情報機器や情報通信ネットワークの仕組みを理解し、進展する情報社会に対応する基礎的な知識や技能を習得する。 			
単元	学習内容		到達目標	
1章 1 私たちを取り巻く情報	<ul style="list-style-type: none"> メディアの意味と特徴を学ぶ。 情報の信憑性について理解する。 情報を批判的に捉えることを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> メディアの意味と特徴について理解している。 情報の信頼性や信憑性について理解している。 メディアの特性を理解し、情報を適切に判断している。 	
1章 2 アナログからデジタルへ	<ul style="list-style-type: none"> 10進法と2進法、16進法の対応について理解する。 文字、画像、動画、音のデジタル化の仕組みを理解する。 デジタルデータの利点と、情報の統合について理解する。 写真を収集し、サイズ(ドット数)、解像度、色数を変更する。 元の画像と変更した画像のデータ量を比較し、まとめる。 音声データの標準化周波数や量子化レベルを変更する。 元の音声と変更した音声を見比べ、データ量を比較する。 		<ul style="list-style-type: none"> 10進法→2進法など、基数変換が正確にできる。 文字、画像、動画、音のデジタル化の仕組みを理解している。 デジタル化の利点と問題点を理解している。 写真素材を効果的にストーリーとして表現している。 さまざまなデータの加工ができる。 データ量の変化の仕組みについて理解している。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 写真の一部を抜き出す。 別の写真に抜き出した画像を重ね合わせる。 作品の印刷・展示をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 画像処理ソフトウェアを活用することができる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 画像処理ソフトウェアを用いて画像を加工する。 プレゼンテーションソフトウェアでスライドショーを作成する。 作ったクイズ画像を発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> 画像の加工を適切に行うことができる。 スライドを効果的に作成することができる。 自分の作ったクイズを効果的に発表しようとしている。 	
1章 3 情報の表現と伝達	<ul style="list-style-type: none"> 情報の表現と伝達について理解する。 メディアの選択やカラーバリエーションについて理解する。 プレゼンの意味やその発表・評価方法について理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達の仕組みについて理解している。 情報伝達のためのメディアの選択について理解している。 プレゼンテーションの意味と方法を理解している。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活などの写真を収集する。 ビデオ編集ソフトウェアで、見せたい順に写真を配置する。 それぞれの写真にキャプションを入れる。 トランジションを設定する。 作品を発表し、評価する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の意図した画像ムービーを作成することができる。 写真素材を用いて、効果的に表現している。 	
	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットのテーマを考える。 パンフレットの構成を考える。 素材を収集し、パンフレットを作成する。 パンフレットを公開し、相互評価する。 パンフレットに関するレポートを作成し、展示会を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿った内容を表現している。 ソフトウェアを用いて、効果的に表現することができる。 	
2章 1 インターネットの利用	<ul style="list-style-type: none"> IPアドレスやパケット通信について理解する。 WWWや電子メールの仕組みについて理解する。 検索エンジンの仕組みとその検索方法について理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> IPアドレスやパケット通信の仕組みを理解している。 WWWや電子メールの仕組みを理解している。 検索エンジンの仕組みとその検索方法を理解している。 	
2章 2 ネットワークとコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> メディアの発達について学ぶ。 情報発信の方法とその工夫・注意点について理解する。 コミュニケーションの特徴とその活用法について学ぶ。 画像ファイルから位置情報を取り出し、撮影場所を特定できる。 		<ul style="list-style-type: none"> メディアの発達について理解している。 情報発信や情報の表現に関する注意点を理解している。 コミュニケーションの特徴を理解している。 GPSやジオタグの利点と欠点を正しく理解している。 	
3章 1 情報化の影響と課題	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルメディアや、表現活動、情報発信について学ぶ。 情報社会のさまざまな問題について理解する。 情報セキュリティについて理解する。 情報モラルについて理解し、それを積極的に活用していくことを考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルメディアやさまざまな情報発信について理解している。 情報社会のさまざまな問題について理解している。 情報セキュリティについて理解している。 情報モラルについて理解している。 情報モラルを意識した対応をしようとしている。 	
3章 2 法律と個人の責任	<ul style="list-style-type: none"> 著作権について理解する。 個人情報について理解し、その保護や活用について理解する。 世界一のビルを検索する。 ヒットしている映画を探す。 日本の古典文学を検索する。 目的地までの経路を考える。 検索エンジンの使い分けについて整理する。 案内状を作成する。 レポートを作成する。 		<ul style="list-style-type: none"> 著作権について理解している。 個人情報の保護について理解している。 情報検索を効果的に行うことができる。 情報検索を積極的に工夫しようとしている。 文書処理ソフトウェアの特性を理解している。 指示に従って、案内状を作成することができる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 構成用紙にアイデアを書く。 構成用紙をスライドにする。 自己PRを発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自己PRの内容を積極的に表現しようとしている。 自己PRの内容を効果的にスライドに表現している。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 効果的な表現方法を理解している。 	
4章 1 社会における情報システム	<ul style="list-style-type: none"> 社会のさまざまな情報システムについて理解する。 情報システムの発展と進歩について理解する。 今後の情報社会の変化について考察する。 		<ul style="list-style-type: none"> さまざまな情報システムについて理解している。 情報システムの発展と進歩について理解している。 今後の情報社会について考えている。 	
4章 2 情報システムと人間	<ul style="list-style-type: none"> 障害やエラーへの対処方法について理解する。 デジタルデバイド(情報格差)について理解し、その対応について活用できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 障害やエラーへの対処方法について理解している。 デジタルデバイド(情報格差)について理解している。 	
4章 3 情報社会と問題解決	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決のステップについて理解する。 現実の事象に対して、問題解決を適用し、活用する。 テーマを決め、ブレインストーミングを行う。 ブレインストーミングで出された意見をKJ法的手法で整理する。 整理した内容を基に図解化する。 		<ul style="list-style-type: none"> 問題解決のステップについて理解している。 現実の事象に対して、問題解決の手法を積極的に活用しようとしている。 問題解決に積極的に参加しようとしている。 問題の要素の構造化や図解化を適切に表現している。 	